【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

心と心をつないで

水出　智津
[推進員認定期] 第6期　[所属] 埼玉アイメイトの会（視覚障がい者）　[活動エリア] さいたま市

学習対象者	■小学生（高学年）□中学生　□高校生　□住民　□その他（　　）
内　　容	■障がい理解（車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他（講演　　） □高齢者理解（高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他（　　） □その他の理解（　　）
所用時間	１回あたりの時数：授業４５分×２コマ＝９０分
ねらい	①　福祉の枠にとらわれず、人と人とのつながりの大切さを考える。 ②　みんながつながれば困難を乗り越えられることに気づく。

はじめに

私は、二人の子供の子育て中の主婦で盲導犬と暮らしている。盲導犬啓発講演会に、ある小学校教員がたまたま参加していて出会ったのが、福祉教育に携わるきっかけであった。学校での福祉教育のお手伝いを始めたのは、総合学習の取り組みが始まった10年前である。障がいをもって暮らしていても、元気に楽しく過ごせる秘訣を子供たちと一緒に考えていけたらと、現在も取り組んでいる。

実践内容

①　お話「心と心をつないで～目の不自由な人の日常生活について」

(1) 体には素晴らしい道具（五感）がある。使えない所があっても使える所をフルに使って生活している。
→「包丁でキュウリを切る実演」をする。

(2) 生活の工夫（便利グッズについて）
→点字絵本の読み聞かせ、文字盤を指で触れる腕時計･音声で読み上げる携帯電話の紹介

(3) まとめ

②　寸劇「あなたならどうしますか？」

→街で見かけた視覚障がい者へのお手伝いの仕方を考えさせるストーリー。

(1) キャストは私に加え、学校の先生や生徒に演じてもらう。（シナリオは別添のとおり）

(2) 問題場面が満載の寸劇の後に振り返りをし、子供たちと共に何が大切かを考え、学ぶ。

③　盲導犬のデモンストレーション＆盲導犬についての話

→寸劇は、通行人役と私が「盲導犬の話の続きはバスの中で…」で終わるので、盲導犬のデモンストレーションに自然につなげる。

ここがポイント！

【お話について】

① 五感のことを「素晴らしい道具」と例えることで、残存機能を生かす私たちの体のつくりの素晴らしさを伝える。また、包丁でキュウリを切る実演を見て「見えないのにどうして上手に切れるのか」という子供の疑問に対して、やりたいなという気持ちが大切であることや、頑張ればできるようになるという、子供にも通じるメッセージを伝える。

② 自分の努力や生活の工夫をしても、一人でできないことがあるので、周囲の人の理解と協力が大切で、お互いのコミュニケーション（言葉の力など）が大切という話のまとめをする。

③ 「友達が困っていたら助けてほしい」「自分が困った時も身近な人に相談してほしい。優しい誰かが助けてくれるはず」と呼びかけ、今回の学びを子供自身の日常生活に生かせるよう助言する。

【寸劇について】

① 「寸劇」というプログラム形式は、子供が実際に近い様子を見て、楽しみながら学べて、大切なことが伝わりやすいメリットがある。

② 声かけの仕方、お手伝いの仕方は、人それぞれ違う。直接コミュニケーションをとって、相手にあったお手伝いの仕方を考えることが大切だと気付いてもらう（相手の立場に立つ大切さ）。

成果と課題

【成果】

子供の感想文の中で「人と話をすることがすごく大切だとわかった。」や、「水出さんの周りには、優しい人がたくさんいるのですね。」と気づいてくれた子供がいた。障がいがあっても、自分の努力や工夫、周りの協力が大切だと分かってくれたように思う。

【課題】

おそらく学校は長期計画をたてており、その中の一コマとして依頼されたと思う。しかし、私の実践が計画の中でどんな位置付けなのか、単発に終わらずその後の学びがどう続いていったのかが分からず、残念である。